

環境経営論 2005年度個別感想集

平成17年8月4日
東京外国語大学 担当講師 小野木正人

1. 一番印象的だったこと

- 人とEMSとの結びつき。
- 日本の環境対策の遅れ。
- 「すべて、人だ」ということ。何を求めても、動かなければ得られない。
- 専門バカは良くないということ。
- 「守破離」の話。自分に当てはまって、心に残った。(2)
- 環境経営学の基礎を学べたことと、先生の熱意。
- 「If……then……」を考へろ。物事を考へるのにとても大切な視点を持つことができた。
- 資格をとることだけが重要なことではないということ。専門以外にも武器を持つこと。
- ISO14001の基礎事項。(2)
- 「就社」と「就職」の話。自分が何をやりたいのかを深く考へるきっかけになった。(2)
- 学習曲線の話。友人にも教へようと思う。(3)
- ガイアシンフォニー。(3)
- アウトプットの重要性。これからは、積極的に心がけたい。(3)
- メンタル経営学。これから実践して行きたい。(2)
- 「2・8」の原則。自然界でも社会においても通じるところが印象的だった。
- 基礎能力が重要である、ということ。
- 「環境監査は人とのコミュニケーションである」という考へ方。
- 短い集中講義の時間で、様々な知識を得ることができたこと。

2. 得たもの、気づき

- 企業の環境対策について、多角的方面から考へられるようになった。
- 行き方について多くを学ぶことができた。
- アウトプットするのが大切さと、その為には訓練が必要だということ。(5)
- 「4R」をこれからの生活で常に意識し、実践して行きたい。
- 苦勞を経験した人は器が大きくなる。挫折を恐れず前に進んでいこうと思う。
- 企画を実行に移すノウハウを学べた。変えたくても変えられないという状況から抜け出せるようになりたい。
- 「潜在意識の活性化」を私も実行して行きたい。
- プランを立てることの重要性。漫然と過ごしていた大学生活を改めたい。
- 学問、知識だけではだめだということ。基礎能力の向上を目指したい。
- 「学習曲線」があのような形をしているということ。根気よく努力していこうと思う。(2)
- 環境分野に限らず、すべての分野を動かしているのは人間だということ。多くの人に知識を伝へなくてはならないし、人の心理についても勉強したい。

3. その他の感想

- ISO を取得するのは地道で大変な作業だが、取ると取らないでは環境に大きな影響があると思うので、どんどん広がって欲しい。
- 社長、大学院生、大学講師をかねるのは、普通にやっていたら絶対に時間が足りないと思うので、先生の時間管理マネジメントがここにも生かされていると思った。
- 環境問題が気にかかりつつも、一人では何もできないとあきらめていたが、今回の受講で「アウトプット＝実行」が大切だと再認識した。
- 「環境経営論」の授業だが、「人生経営論」も学べたと思う。
- 今まででは環境問題を経済や法の面から見ていたが、今回始めて経営の視点を学び、一番実践的で身近だと感じた。
- 今後の学生生活を送る上で、大きな刺激になりました。ありがとうございました。
- EMS や ISO14001 の話と、人生や心理学についての話など、バランスが取れた授業だったと思う。
- 「仕事の楽しさの裏には苦労がある」という言葉の重みを感じた。大変なことがあったときはこの言葉を思い出そうと思う。
- 自然環境と人間は切り離すことはできないのに、人は時々環境に無関心になる。この講義で、自然と共生してゆく生き方の大切さに気づいた。